

平成30年人文学部
教員研究業績一覧（2018.1.1-12.31）
Academmic Achievements in 2018: Faculty of Arts

凡例：

氏名

①著書

②論文・研究ノート

③翻訳

④芸術創作

⑤書評・随筆

⑥学会・研究会等での報告

⑦上記以外の業績

金井 直

- ①『彫刻1』（「彫刻の問題，その射程」を白川昌生，小田原のどかと共同執筆，トポフィ
ル）[共著]
- ②「「不完全」に添う」（展覧会図録『小沢剛 不完全—パラレルな美術史』千葉市美術館，
pp.26-30)
- ⑤1）川田知志評（展覧会図録『VOCA 展2018』上野の森美術館，pp.40-41）[単著] 2）
「＜展評＞第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ（ジャルディーニ他，ヴェネツィア，2017年
5月13日-11月26日）」（『ディアファネース』京都大学大学院人間環境学研究科岡田温司研究
室，5号，pp.129-134）[単著] 3）「ノーサイド，あるいは再試合～川田知志のフレスコ画」
（『アートラボあいちアーティストインレジデンス「まちと synergism」』記録集，アートラボ
あいち，p.19）[単著]
- ⑦1）シンポジウム「石膏像の歴史，その受容と展開」パネリスト（千葉市美術館，2月4
日）2）シンポジウム「事物の権利，作品の生」パネリスト（美術評論家連盟主催，東京藝
術大学，11月11日）

早坂俊廣

- ①小路口聡編『語り合う＜良知＞たち—王龍溪の良知心学と講学活動』（研文出版，「語らな
い周夢秀を語る—王龍溪と嵯県の周氏」の執筆および銭明「講学と講会—明代中晩期の中国
陽明学派を主軸として」の日本語翻訳を担当）[共著]
- ②「劉宗周に於ける意と知—史孝復との論争から—」（『東洋古典学研究』第46集，
pp.17-44）[単著]
- ③1）「何俊著「劉宗周の『人譜』—人生を完成させるための点検簿—」訳注」（『信州大学
人文科学論集』第5号，pp.173-196）[単著] 2）「鄒守益「会語」資料（青原の会）訳注

—陽明門下の会語記録を読む 其の二— (『白山中国学』通巻24号, pp.1-46) [共著] 3) 『朱子語類』卷一二三「陳君舉(陳同甫葉正則附)」訳注(三) (『東洋古典学研究』第45集, pp.119-155) [共著]

⑥「论刘宗周的“意”与“知”」(「宋明理学国際論壇～暨上海儒学院第二届年会～」, 8月23日, 復旦大学哲学院) [単独]

⑦1) 「〈命〉の中国哲学」(諏訪市公民館市民大学講座, 3月6日, 諏訪市公民館) [単独]
2) 「明代のキリスト教宣教師マテオ・リッチについて」(第22期日中関係を考える連続市民講座「中国の歴史・文化と日本」, 12月15日, 長野県日中友好協会) [単独]

北村明子

④1) 「Cross Transit vox soil」, 演出・振付・出演, 平成30年 3月28日～30日, せんがわ劇場, 芸術文化振興基金, 国際交流基金アジアセンター, アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)助成事業 2) Cross Transit Project 「土の脈」, 演出・振付・出演, 平成30年10月12～14日, KAAT 神奈川芸術劇場, KAAT 神奈川芸術劇場主催, 芸術文化振興基金, 国際交流基金アジアセンター アジア・文化創造協働助成事業, 平成30年10月20日, まつもと市民芸術館, 主催: 一般財団法人松本市芸術文化振興財団, 後援: 松本市, 松本市教育委員会(松本公演)

⑤<インタビュー> 1) 「カフカ『変身』体で表現」, 共同, 平成30年7月4日, MG プレス 2) 「ダンサー・北村明子の新作“vox soil”は, リズムの訪れを待つ人びとの時間を描く」, 共同, 平成30年3月26日, Spice エンタメ特化型情報メディアスパイス 3) 研究室おじゃまします「体と動き その人を凝縮」, 単独, 平成30年8月31日, 信濃毎日新聞 4) 「北村明子(振付・ダンサー), 横山裕章(サウンドディレクター)が語る『土の脈』。それは迫力あるダンスと映像と照明と音楽が融合した空間エンターテインメント」, 共同, 平成30年10月1日, Spice エンタメ特化型情報メディアスパイス 5) Creators 「アジア発 新しいダンス探す 振付家・ダンサー北村明子さん」, 単独, 平成30年10月3日, 読売新聞 6) 「アジア『融合』舞台で感じて」, 単独, 平成30年10月17日, 信濃毎日新聞

⑥“Choreographic Research—Textures, Relationships, and Principles Regarding the Body”, 【国際】単独, 平成30年8月11日, Seoul International Choreography Workshop, Seoul Dance Center 主催

⑦<レクチャー> 1) 「遠くて近い……武術と舞踊の刺激的な関係」, 単独, 平成30年4月21日, 放送大学長野学習センター 2) 「振付家ワークショップ vol.1 振付家のケーススタディ5」, 単独, 平成30年8月1日, セゾン文化財団森下スタジオ 3) 「振付家育成講座【Terra Co.】特別講座」, 単独, 平成30年12月16日, 経堂地区会館, Organ Works 主催<レクチャー・ワークショップ> 1) “Choreographic Research—Textures, Relationships, and Principles Regarding the Body”, 【国際】単独, 平成30年8月12-18日, Seoul International Choreography Workshop, Seoul Dance Center 主催 2) 中学生を対象とするダンスワークショップ: 「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる!」, 単独, 平成30年11月1日～22日, (全7回), 戸田市立美笹中学校主催, 彩の国埼玉芸術劇場共催 3) 響ダンスワークショップ, 単独, 平成30年12月20日, 麻布区民センター, Muse Company 主催

濱崎友絵

⑤書評（西尾哲夫，水野信男編著『中東世界の音楽文化——うまれかわる伝統』）日本音楽学会『音楽学』第64巻1号（2018）68～70頁（平成30年9月），⑦1）科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）（平成28年度～平成30年度）「ドイツにおけるトルコ系移民の音楽とその伝承」研究代表者，2）東洋音楽学会東日本支部委員（2014年12月～2018年12月），3）『音楽大事典』（平凡社）改訂版編集委員（2018年1月～現在に至る）

三谷尚澄

①『新・カント読本』（牧野英二（編），法政大学出版局，第21章「カントにおける生と死の倫理学／有限な理性の奇妙な運命」（pp.279～292）を分担執筆，全371頁）[共著]
 ②「大学改革の中の哲学教育」（『IDE 現代の高等教育／若手からみた「大学改革」』No.603, pp.29-34）[単著]
 ⑥ 1）Trailblazing with Dōgen (A Workshop on Dōgen, March 7, Yoshida Izumidono, Kyoto University [単独] 2）On the Elusiveness of Dōgen's Ontology: *Busshō, Inmo, and Shoho Jisso* (Dōgen Workshop, 8 Sep, Kyoto University) [単独] 3）On the Elusiveness of Dōgen's Ontology: *Processistic Monism with an Ineffabilist Turn* (New York Workshop for the Cosmos of Dōgen, 5 Oct, City University of New York, Graduate Center) [単独]
 ⑦ 1）「これからの「地方」の話をしよう／文系学部は本当に不要なのか？」（長野県若年層人材戦略研究会 第5回研究会，3月20日，信州大学工学部 SAS Tec）[単独] 2）「これからの「地方」の話をしよう／待ち受ける「困難の時代」を前に，いま「哲学」に何ができるか」（第168回 サロンあがたの森，7月14日，あがたの森文化会館）[単独]

護山真也

① 1）[共著]『高校倫理新訂版』（矢内光一，石井雅之，藤原聖子，護山真也ほか5名執筆・編修，実教出版）[第2章第4節「仏教」（pp.50-57），「テーマ学習：心とは何か」（p.122）を分担執筆・編修] 2）[共著]『はじまりが見える世界の神話』（植朗子編，阿部海太絵，石黒大岳，市川彰，護山真也ほか16名執筆）[「光の故郷へ至る道／インド神話」（pp.108-113）を分担執筆]
 ② 1）『因明正理論疏』における四相違の解釈（下）『信州大学人文科学論集』第5号，pp.1-28 [単著] 2）「自己認識と主観性」『比較思想研究』第44号，pp.137-144 [単著] 3）「ヨーガ行者による過去や未来の認識について」『印度学仏教学研究』第66巻第2号，pp.181-186 [単著] 4）「仏教哲学の可能性—無我説をめぐる西洋哲学との対話」『現代思想2018年臨時増刊号：仏教を考える』，pp.138-151 [単著]
 ⑤ 1）「空の倫理学を考える」『心 日曜講演会講演集』第37集（武蔵野大学），pp.73-84 [単著]
 ⑥ 1）「比較思想としての仏教認識論」（比較思想学会第45回大会パネル「仏教学のフロンティアと比較思想」パネリスト発表，日本大学，6月16日）[単独] 2）“Hallucination, yogic perception, and omniscience: A summary of Prajñākaragupta's commentary on *Pramāṇavārttika* III 281-286” (International Workshop: Prajñākaragupta on yogic perception: Direct insight from

abstract truth, Austria Academy of Science. 7月2日) [単独] 3) 「ヨーガ行者の直観と全知をめぐるプラジュニャーカラグプタの議論—*Pramāṇavārttikālaṅkāra ad Pramāṇavārttika* III 281-286の要約と分析—」(第29回西日本インド学仏教学会学会学術大会, 九州大学, 7月28日)

4) 「ヨーガ行者の直観と全知をめぐるプラジュニャーカラグプタの議論—*Pramāṇavārttika* III 286の解釈をめぐる—」(日本印度学仏教学会第69回学術大会, 研究発表, 東洋大学, 9月2日) [単独] 5) “Dōgen on Time and Self” (International Workshop: Dōgen in Dialogue with Analytical Philosophy, The City University of New York, 10月5日) [単独] 6) “An analysis of *svalakṣaṇa* in Dharmakīrti's Philosophy” (International Workshop on Buddhist Ontology, 中央研究院, 台湾, 12月7日) [単独]

菊池 聡

- ① 1) 『心理学叢書 心理学って何だろうか? 四千人の調査から見える期待と現実』楠見孝(編) 誠信書房 [共著] 2) 『口・鼻・耳の感覚メカニズムと応用技術』S&T出版 [共著]
- ② 1) 「災害における認知バイアスをどうとらえるか」(日本地すべり学会誌, 55(6), 14-20.) [単著], 2) 「ブレンディッド学習におけるオンライン掲示板での発言行動に関する学習者特性の影響」, (電子情報通信学会技術研究報告・教育工学, 118, No.294,7-12.) [共著]
- ③ 「教えて! 信州の防災学15 デマや流言に惑わされないために 一人ひとり情報の吟味を」(信濃毎日新聞, 3月19日) [単著]
- ④ 1) 「疑似科学を中心としたオンライン上議論における誤謬の分析」(日本科学教育学会第42回年会論文集, 341-342, 信州大学, 8月18日) [共同] 2) 「疑科学技術リテラシーと批判的思考態度が防災・減災の学習活動に及ぼす影響 オンライン・ディスカッション環境での検討」(日本教育心理学会第60回大会発表論文集, 312, 慶應義塾大学, 9月15日) [共同] 3) 「疑似科学信奉に関連する直観的思考とその抑制」(日本心理学会第82回大会発表論文集, 176, 東北大学, 9月27日) [単独] 4) 「サブカルチャーの心理学(1) オタクのダイバーシティとスペクトラム」(日本心理学会第82回大会シンポジウム, 東北大学, 9月27日) [共同] 5) The Relationship Between Student's Characteristics and Online Discussion Activity” (17th European Conference on e-Learning, p.417-423, University of West Attica, Athens, Greece, 11月1日) [共同]
- ⑦ 1) 「錯覚の不思議な世界」(信州大学出前講座・小川村熟年大学, 1月24日) 2) 「冬の防災・救急救命」地域防災減災センター第6回市民シンポジウム パネルディスカッション」(長野市ホテル国際21, 2月3日) 3) 「人を動かす, やる気を引き出す 身近で使える心理学」(川崎商工会議所 KKCI 企業家カレッジ, 2月19日) 4) 「適切な情報分析と意思決定のためのクリティカル・シンキング入門」(本田技研労働組合栃木研究所支部, 2月23日) 5) 「ストレスマネジメント研修 ポジティブに生きるための心理学」(東京衛生学園教職員研修会, 4月2日) 6) 「人なぜ疑似科学を信じるのか」(飯山高等学校探究科一年生講演会, 4月26日) 7) 「ポジティブに生きる心理学 落ち込みをふせぐ「考え方」を身につけよう」(信州大学医学部地域保健推進センター 健康講座シリーズ8, 5月15日) 8)

「コズミック・フロント・NEXT フェイク？ 真実？ 宇宙のミステリー 解説」(NHK-BS プレミアム, 5月24日放送) 9) 「クリティカルシンキング入門」(茅野経営塾, 5月28日) 10) 「心理学で体験しよう 人の個性と見方, 考え方」(信州大学出前講座・下諏訪中学校PTA 講演会, 6月19日) 11) 「防災減災のための心の科学」(平成30年度安曇野市防災講演会, 7月7日) 12) 「心理学からのクリティカルシンキング入門」(平成30年度信州大学教員免許状更新講習, 7月28日) 12) 「やる気を引き出す心理学」(信州大学出前講座・長野県小諸高等学校1年生合宿講演会・7月30日) 13) 「防災減災のための心の科学 リスク社会をいかに生きるか」(信州大学出前講座・松本市企業人権啓発推進協議会, 7月31日) 14) 「人権啓発講座メンタルヘルス ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座・白馬村社会福祉協議会災害ボランティア講習会, 9月6日) 15) 「ポジティブに生きるための心理学 落ち込みを防ぐ考え方を身につけよう」(平成30年度安曇野市市民大学講座 信州大学編第4回, 9月6日) 16) 「だまされる心の心理学」(信州大学出前講座・松本市社会福祉協議会里山辺支会福祉を語るつどい, 9月19日) 17) 「だまされる心の心理学」(信州大学出前講座・長野市消費生活センター生活知識講座, 10月1日) 18) 「心が生み出す疑似科学」(東京理科大学同窓会支部総会講演会 10月14日) 19) 「だまされる心の心理学」(信州大学出前講座・諏訪地域人権啓発ネットワーク協議会講演会, 10月31日) 20) 「防災減災のための心の科学 リスク社会をいかに生きるか」(信州大学出前講座・諏訪消防協会女性消防団員研修会, 12月1日) 21) 「だまされる心の心理学」(信州大学出前講座・長野市吉田老人福祉センター冬期学級よもやま講座, 12月5日) 22) 「防災減災の心理学 あなたの「心の備え」, 大丈夫？」(信州大学地域防災減災センター・飯島町防災講演会, 12月6日) 23) 「情報分析と意思決定のためのクリティカルシンキング入門」(日本食品洗浄衛生協会講演会, 12月12日) 24) 「明日の安全を確かなものにするために リスク社会をいかに生きるか」(第32回池田町社会福祉大会基調講演, 11月23日)

佐藤広英

- ② 1) 「Comparison of privacy consciousness between Japanese and Taiwanese」(*PsyCh Journal*, 7, 268-269) [共著] 2) 「高齢者におけるインターネット利用者の情報プライバシーの特徴」(*老年社会科学*, 40(3), 271-282) [共著] 3) 「情報プライバシーがインターネット上の未知の他者への自己情報公開に与える影響：関係継続の予期の有無による違い」(*パーソナリティ研究*, 27(1), 53-63) [共著] 4) 「高齢者のインターネット利用に対するリスク認知の特徴：若年者との比較」(信州大学人文科学論集, 5, 29-39) [共著]
- ⑥ 1) 「プライバシーポリシー自動解析のための学習データ構築に向けた取り組み」(暗号とセキュリティシンポジウム2018, 朱鷺メッセ, 1月26日) [共同] 2) 「Big Five パーソナリティとプライバシーに関する個人差の関連」(日本パーソナリティ心理学会第27回大会, 立命館大学, 8月26日) [共同] 3) 「SNS上におけるコーピングが精神的健康に及ぼす影響」(日本教育心理学会第60回総会, 慶應義塾大学, 9月17日) [共同] 4) 「運動による疲労状態の潜在的測定」(日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター, 9月26日) [共同]
- ⑦ 1) 情報通信研究機構ネットワークセキュリティ研究所セキュリティ基盤研究室・プライバシー検討WG委員(2015年9月～現在) 2) 日本パーソナリティ心理学会・学会誌編集

委員会常任委員（2018年9月～現在） 3）WebLabMeeting・メディア・情報・コミュニケーション研究編集委員（2016年4月～現在） 4）「スマートフォンで潜在的なメンタルヘルスを評価するアプリケーションの開発」（科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者、～2021年3月） 5）「青年期における SNS 利用時の対人ストレス過程に関する研究：精神的健康・学校適応との関連」（財団法人電気通信普及財団平成28年度研究調査助成 研究代表者、～2019年6月） 6）「インターネットの心理学」（信州大学出前講座 坂城町青少年を育む町民会議、5月29日） 7）「インターネットの心理学：信州大学生のネット事情」（信州大学人文学部平成30年度後援会総会での講演、信州大学、7月21日） 8）「情報メディアの心理学」（平成30年度教員免許状更新講習、信州大学、8月4日） 9）「長野県をフィールドとした着地型観光プランの作成と情報発信：地域 PR 動画に着目した取り組み」（2018年度 JAF 長野支部会員優待施設連絡会での講演、上諏訪温泉双泉の宿朱白、11月13日） 10）「情報メディア研究の現状と展望：SNS、ネット掲示板、プライバシーに関する研究を中心に」（明治大学情報コミュニケーション研究科学際研究での講演、明治大学、12月7日）

茅野恒秀

- ② 1) 「二重基準が跋扈する原発事故の放射性廃棄物政策」『都市問題』109(3):46-50 [単著]
- ⑤ 1) コラム「停電時に役立つ自然エネルギー：太陽光パネルで電気確保」（信濃毎日新聞 2018年10月15日）
- ⑥ 1) 「自然エネルギー信州ネットの取り組み」（9月11日、農村計画学会低炭素特別委員会、長野市生涯学習センター） [単独]
- ⑦ 1) コーディネーター「森と都市をつなぐ木育」（2月24日、第5回木育サミット・シンポジウム、秩父宮記念市民会館） 2) コーディネーター「山主サミット」（3月11日、安曇野市さとぶろフォーラム、安曇野市役所） 3) 講演「資源と経済が循環する再生可能エネルギー事業化支援に向けて」（3月19日、松本地域の再生可能エネルギー事業化支援に関する勉強会、信州地域技術メディカル展開センター） 4) 講演「事故由来放射能汚染物質の問題状況と取り組み課題」（5月20日、市民政治フォーラム「「原発ゼロ社会」への道標」、仙台弁護士会館） 5) 講演「調査報告「相乗りくん」の成立と展開、そして今後」（6月23日、NPO 法人上田市民エネルギー総会、HanaLab. 常田） 6) 「首都圏の焼却灰がなぜ伊那谷に？：「ゴミは田舎へ」の構図を考える」（9月6日、宮田の環境を守る会学習会、大久保集落センター） 7) 講演「「自然資源管理の社会的技術」の再構築に向けて」（9月28日、株式会社 BO-GA 研修会、グリーンビレッジ横川かやぶきの館） 8) 講演「エネルギー転換の社会構想と変革の道：信州から見える展望と課題」（10月5日、第10回市民・地域共同発電所全国フォーラム、飯田市民館） 9) 講演「核廃棄物問題に関するこれまでの提言と現下の問題状況、新たな課題設定」（10月28日、第21回原子力市民委員会、ルーテル市ヶ谷センター） 10) 討論者「信州の環境と自然エネルギー」（11月23日、信州自遊塾第32回講座、松本市大手市民館） 11) 講演「はじめての六ヶ所村：“誰もがが繋がっている”この村の過去と現在、そして未来」（12月2日、MY Village IDEATHON in TOKYO, 四谷ひろば） 12) 書籍編纂 船橋晴俊『社会制御過程の社会学』（8月1日発行、東信堂、全792頁）

水原俊博

- ①公益財団法人八十二文化財団, 2018, 『長野県の郷土と文化——第4回(2016年)調査報告』公益財団法人八十二文化財団, 共著.
- ②1) 水原俊博, 2018, 「消費社会学における観光の類型化——脱物質的観光の可能性と限界」『立教大学観光学部紀要』第20号, pp.67-74, 単著. 2) 水原俊博, 2018, 「社会空間の複合化——社会的現実の選択的構成」『応用社会学研究』第60号, pp.147-153, 単著.
- ⑥1) 水原俊博. 2018.9.15, 「消費主義と主観的幸福感——上海・北京2都市での統計調査から(2)」, 第91回日本社会学会大会, 於: 甲南大学, 単独. 2) 水原俊博, 2018.11.24, 「社会的消費・質の高度化・消費主義の視点から見る21世紀消費社会の調査研究」, 学術シンポジウム 検証・2010年代の消費社会——シェアリングエコノミー, サードプレイス, 食の安全, 開会挨拶・司会, 於: ステーションコンファレンス池袋.
- ⑦経済社会学会年報編集委員長(常任理事), 経済社会学会高田保馬賞選考委員.

今井 章

- ②1) 「ディスクの回転による触覚の錯覚現象について(2)——回転手の効果についての検討——」信州大学人文科学論集, 5 (52), 41-49頁 [共著]
- ⑥1) “The apparent elongation of a disk by its rotation as haptic phenomenon” The 41st European Conference on Visual Perception (ECVP2018) (2018.8.28, Trieste) [共同] 2) 「ベータ運動観察時の脳磁界誘発反応—2次元的刺激と3次元的刺激の比較による検討—」日本心理学会第82回大会(2018.9.27, 仙台国際センター(東北大学)) [共同] 3) 「物体認知におけるカテゴリーと色が眼球活動に及ぼす影響」日本基礎心理学会第37回大会(2018.12.2, 専修大学) [共同]
- ⑦1) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部平成29年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について—安全運転のために—』」(1月24日, 長野県松本市キッセイ文化ホール) [単独] 2) 2018年度放送大学教養学部第1学期面接授業講師「心理学実験1」(6月16—17日, 長野県諏訪市文化センター) [単独] 3) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部平成30年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について—安全運転のために—』」(6月28日, 長野県松本市勤労者福祉センター) [単独] 4) 平成30年度愛知淑徳大学非常勤講師「視覚生理学演習」(8月20—23日, 愛知県長久手市) [単独] 5) 2018年度放送大学教養学部第2学期面接授業講師「心理学実験3」(11月10—11日, 長野県諏訪市文化センター) [単独]

岡本卓也

- ⑥1) 「サードプレイスの利用は, 生活満足度を高めるのか」(日本コミュニティ心理学会第21回大会, 大妻女子大学, 2018年6月) [単独] 2) 「観光旅行者のリポート行動に関する研究(1)」(日本社会心理学会第59回大会, 追手門学院大学, 2018年8月) [単独] 3) 「観光旅行者のリポート行動に関する研究(2)」(日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター, 2018年9月) [単独] 4) 「旅行キャリアの発達過程(2)」(日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター, 2018年9月) [共同] 5) 「旅行キャリアと最適な旅の経験(1)」(日本観光研究

学会第33回全国大会, 跡見学園女子大学 2018年12月) [共同]

- ⑦ 1) 「観光行動における歩くことの心理過程と自己過程に関する研究」(科学研究費補助金(挑戦的研究(萌芽)):研究代表者), 2) 「旅行キャリア発達のための熟達化過程の解明とキャリア対応型観光支援システムの開発」(科学研究費補助金(基盤研究(B)):分担研究者), 3) 「先端生命科学を促進する先駆的 ELSI アプローチ」(平成28年度 社会技術研究開発センター (RISTEX) 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」:分担研究者), 4) 「コミュニティ健康文化研究プロジェクト」(チームグクル合同会社) 5) 日本コミュニティ心理学会理事, 2) 日本コミュニティ心理学会編集委員会委員 6) 松本市市民活動推進委員会委員長, 2) 平成30年度 松本市協働推進研修講師「市民活動と協働:コミュニティ心理学からみた地域づくり」 7) インタビュー記事「ひとはなぜ山に登るのか」『岳人』2018年2月号 pp.38-39

清水健司

- ⑥ 1) 「失敗経験後の森田神経質者における有効な自己教示的対処」(日本教育心理学会第60回総会, p.322 慶應義塾大学 9月) [共同・国内] 2) 「森田神経質と安心さがしが恋愛関係に及ぼす影響」(日本心理学会第82回大会, 3 PM-002 仙台国際センター 9月) [共同・国内] 3) 「評価懸念が過剰な心配に及ぼす影響—認知的統制による調整効果の検討—」(日本心理学会第82回大会, 1 EV-025 仙台国際センター 9月) [共同・国内] 4) 「他者からの評価・受容が現実自己と理想の重要性に及ぼす影響」(日本心理学会第82回大会, 3 PM-001 仙台国際センター 9月) [共同・国内]
- ⑦ 1) 日本パーソナリティ心理学会機関誌編集委員会常任委員(第27期 平成30年度) 2) 信濃毎日新聞社主催 大学・短期大学進学相談会 説明講師 ホテルブエナビスタ 6月14日 3) 朝日新聞社主催 全国国公立・有名私大相談会2018 説明講師 サンシャインシティ 7月8日 4) 信学会予備校 学部別入試説明会 説明講師 松本会場 10月10日 5) 長野吉田高校によるキャンパス見学 学部別プログラム担当(学部説明・模擬授業「ストレス対処の心理学」) 10月11日 6) 信学会予備校 学部別入試説明会 説明講師 長野会場 10月17日

高瀬弘樹

- ⑥ 「絵画の筆づかひの運動模倣が美的評価に及ぼす影響」(日本心理学会第82回大会, 9月27日, 仙台国際センター) [共同]
- ⑦ 1) 日本学術振興会科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「身体的相互刺激によるリラクゼーション効果の生起機序の解明」(課題番号:15K13138) 研究代表者 2) 公益社団法人才能教育研究会との共同研究「プロのヴァイオリニストの演奏は, アマチュアと何が違うのか?—プレリミナリー・スタディー—」契約締結(2018年9月1日~2019年8月31日)

長谷川孝治

- ②長谷川孝治(2018). ボイストレーニング・プログラムへの参加経験が心理的健康と夫婦間コミュニケーションに及ぼす影響—高齢男性と配偶者の well-being を促進するか— 実験

社会心理学研究, 58, 15-28.

- ⑤ 1) Who tweets negatively about themselves? Effects of self-esteem, reassurance seeking, and motives for negative tweets. (The 19th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology, Mar. 3, Atlanta, USA) [共同: Hasegawa, K. & Furusato, Y.] 2) Who tweets negative things about themselves for getting replies from followers? Effects of self-esteem and the motivation for negative tweets. (The 2018 Biennial Conference of International Association for Relationship Research, Jul.14, Fort Collins, USA) [共同: Hasegawa, K. & Furusato, Y.] 3) LINE 上での安心さがし投稿に対する自尊心とネガティブ投稿動機の効果——誰が、なぜ安心さがし投稿をするのか——日本社会心理学会第59回大会 追手門学院大学 8月28日 [共同: 長谷川孝治・古里由香里] 4) 誰が、なぜ“盛る”のか?——LINE 上でのポジティブな安心さがし投稿に対する自尊心と投稿動機の効果——日本グループ・ダイナミクス学会第65回大会 神戸大学 9月8日 [共同: 長谷川孝治・古里由香里] 5) 弱音に対する共感は、人を安心させるか? LINE 上でのネガティブ投稿への他者からの反応受領時の気分に対する自尊心とネガティブ投稿経験・動機の効果 日本心理学会第82回大会 仙台国際センター 9月27日 [共同: 長谷川孝治・古里由香里] 6) Does Social Avoidance Motivation Promote the Partners' Avoidance Motivation? The Convergence Process of Behavior According to Avoidance Motivation in Dyadic Relationships. (The 19th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology, Mar. 3, Atlanta, USA) [共同: Soma, T. & Hasegawa, K.] 7) 森田神経質と安心さがしが恋愛関係に及ぼす影響 日本心理学会第82回大会 仙台国際センター 9月27日 [共同: 清水健司・清水寿代・長谷川孝治] 8) アイデンティティの感覚が主観的 well-being に及ぼす影響——相互独立的—協調的自己観による調整効果——日本心理学会第82回大会 仙台国際センター 9月27日 [共同: 関森真澄・長谷川孝治]
- ⑦ 日本社会心理学会理事 2015年4月～2019年3月

大串潤児

- ① 1) 安田常雄編『国策紙芝居からみる日本の戦争』勉誠出版, 2018年3月 [共著]
論考「戦時紙芝居論 紙芝居は誰が演じたのか?」266～298頁および紙芝居作品解題(30点)を分担執筆。
- ② 1) 大串潤児「民衆と戦争責任の思想」『日本學報』(韓国日本学会年報)第114輯, 2018年2月, 241～252頁。[単著] 2) 大串潤児「日常生活と戦争 銃後社会史研究の課題をめぐって」『歴史評論』第820号, 2018年8月, 5～18頁 [単著] 3) 大串潤児・原田広「『国策紙芝居』—但馬出石町調査報告」神奈川大学非文字資料研究センター『News-Letter』No. 40, 2018年9月, [共著], 19～21頁を分担執筆
- ③ 1) 大串潤児「書評: 道場親信『下丸子文化集団とその時代』(みすず書房2017)」『大原社会問題研究所雑誌』第712号, 2018年2月, 80～84頁。[単著]
- ⑥ 1) 大串潤児(単独)「誰が紙芝居を演じたか? 戦時紙芝居の実践者」神奈川大学非文字資料研究センター2017年度第6回公開研究会「アジア太平洋戦争と国策紙芝居」, 2018年3月25日, 於・神奈川大学 [単独] 2) 「『明治150年』を考える視点 地域の現代史から」長野県歴史教育者協議会中間研究集会, 2018年5月12日, 於・松本市勤労福祉センター [単

- 独] 3) 大串潤児「青年運動と平和運動 飯田の街から」飯田市歴史研究所地域史講座57 (飯田・上飯田の歴史シリーズ7), 2018年3月17日, 於・飯田市(飯田市役所) [単独]
- 4) 大串潤児「村の学校と`女の子、たち——近代の学校教育を見る眼」神奈川県高等学校日本史サマーセミナー, 2018年8月19日, 於・鎌倉学園高校 [単独]
- ⑦1) 長野県立大学非常勤講師(2019年4月~8月) 2) 国立歴史民俗博物館展示リニューアル委員会委員 3) 飯田市歴史研究所顧問研究員 4) 神奈川大学非文字資料研究センター客員研究員 5) 長野県教育研究集会第19(平和と国際連帯の教育)分科会共同研究員

山本英二

- ①1) 「イエの由緒」(水林彪・青木人志・松園潤一郎編『法と国制の比較史—西欧・東アジア・日本—』日本評論社, pp.457-482) [共著], 2) 「『慶安御触書』は実在しない」(文藝春秋編『日本史の新常識』文藝春秋, pp.177-180) [共著]
- ②1) 「教材としての自治体史」(『日本歴史』第836号, pp.105-108) [単著], 2) 「近世における『偽系図』について」(『歴史と地理 日本史の研究』第263号, pp.27-32) [単著]
- ⑦1) 2017年度後期講座「日本史の謎と常識」(名古屋市・栄中日文化センター, 2月16日・3月16日) [単独], 2) 2018年度前期講座「古文書で学ぶ江戸時代」(名古屋市・栄中日文化センター, 4月20日・5月18日・6月15日・7月20日・9月14日) [単独], 3) 2018年度後期講座「古文書で学ぶ日本史」(名古屋市・栄中日文化センター, 10月19日・11月16日・12月21日) [単独], 4) 愛知大学文学部春学期非常勤講師「日本史学講読」, 5) 徳川林政史研究所特任研究員, 6) 関東近世史研究会評議員

佐藤真紀

- ② 「1791年3月ドゥエ市における食糧暴動」『信州大学人文科学論集』第5号, pp.51-64, 2018年3月 [単著].
- ⑥ 「もうひとつの革命-フランス革命再考」明大西洋史フォーラム, 明治大学, 2018年9月29日 [単独].

佐藤全敏

- ① 『律令制と古代国家』(佐藤信編, 吉川弘文館, 501頁, 担当266-296頁, 3月) [共著]
- ② 「平安時代初期の蔵人頭・蔵人 一覧」(『信州大学人文科学論集』第5号, 207~213頁, 3月) [単著]
- ⑤ 「書評 傳田伊史著『古代信濃の地域社会構造』」(『日本歴史』第841号, 87~89頁, 6月) [単著]
- ⑥1) 「9・10世紀における朝廷のなかの倭歌」(科研研究会, 10月28日, 東京国立博物館) [単独], (2) 「撰関期における律令太政官制の衰減-黒羽報告に寄せて-」(日本史研究会古代史部会, 12月9日, 京都市機関紙会館) [単独], ⑦1) 東京大学史料編纂所特定共同研究研究員(継続), 2) 九州大学大学院人文科学府非常勤講師(4月~9月), 3) 放送大学非常勤講師(4月~9月), 4) 東京書籍中学校社会科教科書『新しい社会』編集委員(継続), 5) 科学研究費助成事業基盤(C)「平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研

究」(継続) [単独]

豊岡康史

- ② 1) Toyooka Yasufumi and Murakami Ei. "The Suppression of Pirates in the China Seas by the Naval Forces of China, Macao, and Britain (1780–1860)." In *In the name of the battle against piracy: ideas and practices in state monopoly of maritime violence in Europe and Asia in the period of transition*. Edited by Ota Atsushi, 199-231. Leiden: Brill, 2018. [共著] 2) 『御製安南記』与『御製十全記』之間：乾嘉年間対越南北部地域政策的転変和基調(『中国辺疆学』8, 2018年) [単著] 3) 相原佳之, 豊岡康史, 村上正和, 李侑儒「嘉慶研究序説(1): 嘉慶四年正月・二月の上諭」(『環日本海研究年報』23, 2018年) [共著]
- ⑤ 「書評：藤原敬士「商人たちの広州：一七六〇年代の英清貿易」」(『社会経済史学』) [単著]
- ⑦ 1) 科学研究費補助金「清朝中期漢地政策の変容とその社会経済的背景の再検討(1736-1854)」(若手研究, 18K12522, 2018-2021年) を研究代表者として実施。2) 2018年度JFE21世紀財団アジア歴史研究助成「清朝中期の構造変動と「嘉慶維新」(1796-1820)」を研究代表者として実施。

氏岡真士

- ① 『杜騙新書』訳注稿二編(『杜編新書』の研究プロジェクト, 全174頁) [共著]
- ② 「《盛世鴻圖》前部與《飛龍全傳》」(『信州大学人文科学論集』第5号, 65-83頁) [単著]

渋谷 豊

- ② 「白い羊と俳句—フランスにおける日本文学受容の一側面」『信州大学人文科学論集』第5号, p.133-144 [単著]
- ⑤ 「藤田嗣治と刺青のこと」『ふらんす』7月号, p.19-21 [単著]
- ⑦ 1) 「選評」『文藝譜(長野県文芸コンクール入賞作品集)』第7輯, p.46-47 [単著] 2) 科学研究費基盤研究(C)「両大戦間期フランスにおけるジャポニザンの活動」(研究課題/領域番号16K02530) 研究代表者

野津 寛

- ② “A Re-Examination of the Prologue Speaker Problem in Apuleius' *Metamorphoses*”, 『信州大学人文科学論集』第5号, p.85-92, 2018年3月 [単著].
- ⑥ 口頭発表 1) “欧米人の能楽研究と西洋古典—ノエル・ペリーの場合—” 2018年2月26日, シンポジウム「能楽とギリシア悲劇及びその受容に関する比較研究(第1回)」, 信州大学人文学部. 2) “Noël Péri's Studies of Japanese Theatre Noh — in Search of Rigid Structure”, 国際シンポジウム Comparative Studies of Japanese and Greek Theatre and of Their Reception, 2018年6月4日, 信州大学人文学部. 3) “Embedded Tales and the Story of Lucius: Psyche-Charite-Lucius and Other Parallel Narratives.” 2018年8月27日, The 5th Tokyo Cambridge Seminar on Law and Humanities, Cambridge University, Faculty of Classics 及び2018年8月30日, Tokyo

Edinburgh Seminar on Law and Humanities, Edinburgh University [単独].

⑦ 1) 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「日本におけるギリシア演劇の受容と世界的発信に関する実証的総合研究」の研究代表者として、シンポジウム「能楽とギリシア悲劇及びその受容に関する比較研究(第1回)」を開催, 2018年2月26日, 信州大学人文学部. 2) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催, 2018年3月31日, アテネフランセ. 3) 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「日本におけるギリシア演劇の受容と世界的発信に関する実証的総合研究」の研究代表者として, 国際シンポジウム“Comparative Studies of Japanese and Greek Theatre and of Their Reception”を開催, 2018年6月4日, 信州大学人文学部. 4) 日仏会館・研究者招聘事業の責任者として, Maxime Pierre氏(Paris第7大学)を招聘すると共に, 同氏の講演会を主催, 2018年6月13日, 日仏会館.

吉田正明

② 「ジュール・ジュイ Jules Jouy—忘れられた「シャンソニエの王」, 『シャンソン・フランスーズ研究』第10号(シャンソン研究会発行), pp.53-77, 2018年12月, [単著]

⑥ 1) 「19世紀フランス詩への民衆歌の影響 L'influence de la chanson populaire sur la poésie du XIX^e siècle」, 信州大学国際シンポジウム2018「19世紀における文学と民衆文化—フランスを中心として—La littérature et la culture populaire au XIX^e siècle」(於信州大学人文学部, 2018年12月2日), フランス語による発表, [単独] 2) 科研報告「シャンソニエ, ジュール・ジュイ Jules Jouy (1855-1897) について」, 第32回シャンソン研究会にて発表(於信州大学人文学部, 2018年12月8日) [単独]

⑦ 1) 第5回東京シャンソンコンクール審査員(於杉並公会堂, 2018年5月5日) 2) シャンソン研究会代表としてシャンソン研究会主催, 第31回シャンソン研究会(於大阪大学言語文化研究科, 2018年5月12日), 第32回シャンソン研究会(於信州大学人文学部, 2018年12月8日) 3) リール大学との学術交流事業の一環としてマルチヌ・リード教授をお招きし, 信州大学国際シンポジウム2018「19世紀における文学と民衆文化—フランスを中心として」及び多文化交流サロン「19世紀フランスにおける女性と演劇」をコーディネート(於信州大学人文学部, 2018年12月1日~12月4日) 3) 実用フランス語検定試験松本会場実施責任者(於信州大学人文学部2018年6月17日, 2018年11月18日) 4) 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C)(一般))(平成29年度~平成32年度)による研究課題「19世紀後半パリにおける出版物とシャンソンとの影響関係」(課題番号17K02589)を研究代表として実施

磯部美穂

② [共著] Entani, Tomoe / Isobe, Miho (2018): „Inner Evaluation of Writing in a Foreign Language Based on Expert Judgment for Correction” Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics, Vol.22 No.5, 2018 (pp. 759-766).

⑤ 新刊紹介 [単著] 磯部美穂 (2018): Eckhard Meineke: Substantivkomposita des Mittelhochdeutschen Eine korpuslinguistische Untersuchung. 日本独文学会『ドイツ文学』第156

号 (p.240)。

⑥ [共同] 磯部美穂・円谷友英「日本人ドイツ語学習者の表現選好傾向抽出の試み」日本独文学会秋季研究発表会, 於 名古屋大学, 2018年9月30日。

⑦講演通訳 立教大学公開講演会ルドルフ・ジメク (Rudolf Simek) 「トールキンとゲルマン神話 (Tolkien und die germanische Mythologie)」於立教大学, 2018年10月5日。

伊藤加奈子

② “家”の日中比較—「家」と「実家」をめぐって— 『信州大学人文科学論集』5号 pp.93-117 平成30年3月 [単著]

鎌田隆行

② 1) « Modes de publication et poétique du chapitre chez Balzac », 信州大学『人文科学論集』第5号 (通巻52号), 2018, pp.119-132 [単著]. 2) « Scènes de table dans *César Birotteau* », *L'Année balzacienne*, 2018, pp.13-31 [単著].

⑥ 1) « Le travail de la langue dans les avant-textes de Balzac », 国際シンポジウム « Balzac et la langue », パリ, メゾン・ド・バルザック, 2018年6月15日 [単独・国際]. 2) « Genèse de la langue des personnages populaires dans *Le Cousin Pons* de Balzac », 国際シンポジウム「19世紀における文学と民衆文化—フランスを中心として—」, 信州大学, 2018年12月2日 [単独・国際]. 3) 「バルザックにおける媒介的生成資料について」, 関西バルザック研究会, 近畿大学, 2018年12月22日 [単独].

⑦ 1) 国際シンポジウム「19世紀における文学と民衆文化—フランスを中心として—」の運営: 信州大学, 2018年12月2日. 2) 講演会司会・通訳: マルティヌ・リード「19世紀フランスにおける女性と演劇」, 2018年12月3日, 信州大学人文学部多文化交流サロン.

3) 科学研究費補助金 (基盤研究C) 「ロヴァンジュール文庫所蔵のバルザック『人間喜劇』生成資料の悉皆調査と目録の作成」(2015~2017年度) 調査結果一覧のウェブ公開. http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/prof/kamada_1/Descriptif.pdf 4) 科学研究費補助金 (基盤研究C) 「バルザックにおける共作の生成論的研究」(2018~2020年度, 研究課題番号18K00474) 研究代表者. 5) Groupe International de Recherches Balzaciennes (国際バルザック研究会) 執行部メンバー (2008年3月~). 6) パリ第8大学出版会叢書 « *Manuscrits modernes* » アドヴァイザリーボード委員 (2014年5月~). 7) パリ・ディドロ大学ジャック・セバシエール研究センター客員研究員 (2015年12月~). 8) クラシック・ガルニエ社 « *Revue Balzac* » 編集委員 (2016年11月~). 9) シャンソン研究会参与 (2011年4月~). 10) 日本フランス語フランス文学会中部支部幹事 (2017年4月~).

葛西敬之

② Unter dem Strich, gegen den Strich. Robert Walsers Feuilleton und Benjamins Erinnerung. In: *Neue Beiträge zur Germanistik*, Band 16/Heft1. S.95-111. [単著]

⑥ 「ローベルト・ヴァルザーにおける詩という形式について」日本独文学会北陸支部研究発表会, 於金沢大学, 2018年11月23日 [単独]

⑦講演通訳 講演者：ルドルフ・ジーマク教授（ボン大学）「トールキンのファンタジーとゲルマン神話」信州大学人文学部多文化交流サロン特別講演会，於信州大学，2018年10月9日

伊藤 盡

⑥1) (招待講演) [単独] アイスランド大学中世学科主催 ‘Japanese Reception of Old Norse Mythology: The Appreciation of Norse Myths in the Far East’. (101 教室 Lögberg, University of Iceland, 2018年3月6日) 2) (研究発表) [単独] ‘Tolkien’s *Fall of Arthur* and the Alliterative Tradition Reconsidered’ Half-day Conference ‘King Arthur’s Afterlife: The Reception of the Arthurian Legend’ (武蔵大学, 2018年6月9日) 3) (シンポジウム) [共同] アイスランド大学中世学科・日本語学科共催 Professor Jón Karl Helgason との共同企画シンポジウム ‘Magnað Manga’ (「驚くべきマンガ」) 企画・司会担当 (Veröld Húsi Vigdísar, University of Iceland, 2018年8月16日) 4) (研究発表) [単独] ‘From a Time-Leaper ‘Urðr-Verðandi-Skuld’ to a Ragnarök Prophesied in a High-School Class Room: Varieties of Old Norse Mythological Gimicks in Manga’. 17回国際サガ学会 (Main Bulding Aula, University of Iceland, 2018年8月17日) 5) (招待講演) [単独] ‘From Black-haired Brynhildr to a Brocade-haired Norn: Norse Myths in Japanese Manga’, The Medieval Scandinavian Post-Graduate Seminar (ロンドン大学 UCL 中世北欧学主催, University College, London, 2018年12月13日)

⑦上記以外の業績 1) (講演) [単独] 「ABC 赤ちゃんからはじめる？」(松本市梓川図書館, 2018年3月16日) 2) (講演) [単独] 「J. R. R. トールキンのファンタジー世界：『指輪物語』とエルフ語への招待」(NHK 文化センター京都, 2018年5月26日) 3) (司会進行) 慶應義塾大学文学部藝文学会・同学部独文科共催ルドルフ・ジーマク教授（ボン大学）講演 ‘The Two Eddas’ (慶應義塾大学三田キャンパス, 2018年10月4日) 4) (司会進行) ビルナ・アルンビョルンスドッティル教授（アイスランド大学）講演 ‘On Icelandic Online’, ウールヴァル・ブラガソン教授（アイスランド大学）講演 ‘Hávamál: The Sayings of Óðinn’ (第9回多文化交流サロン, 人文ホール, 信州大学, 2018年11月27日)

杉野健太郎

①1) 共著書 アメリカ学会編『アメリカ文化事典』, 丸善出版, 2018年1月20日 (ISBN-10 : 4621302140) (項目執筆) [共著] 2) 共著書 高柳俊一・巽孝之編／上智大学文学部英文学科同窓会編『上智英文90年』, 彩流社, 2018年5月15日 (ISBN-10 : 4779124875) (大学史, 編集委員) [共著]。

⑤1) 書評 「岩田和男・武田美保子・武田悠一編『アダプテーションとは何か 文学／映画批評の理論と実践』, 『中部アメリカ文学研究』第21号, 日本アメリカ文学会中部支部, 2018年3月, pp.31-33。(単著, 国内) 2) 学術記事「国際F.スコット・フィッツジェラルド大会参加報告」, 『フィッツジェラルド研究』第1号, 日本F.スコット・トフィッツジェラルド協会, 2018年3月28日, pp.45-49。(単著, 国内)

⑥司会進行「『グレート・ギャツビー』の映画化を巡るワークショップ」, 日本F.スコット・フィッツジェラルド協会全国大会, 2018年7月14日, 関西学院大学梅田キャンパス。

⑦学会役員：日本映画学会副会長・事務局長（2018年1月～3月）・日本映画学会会長（2018年4月～12月）／日本英文学会中部支部理事・大会準備委員会委員長／日本スコット・フィッツジェラルド協会評議員・地域代表／日本アメリカ文学会中部支部幹事

飯岡詩朗

②「テレビを冷やかして 雑誌『ニューヨーカー』が描いた新しいメディア／家電としてのテレビ」『応用社会学研究』第60号, pp.107-122 (2018年3月). [単著]

⑦1) アメリカ学会編『アメリカ文化事典』丸善出版, 16章「映画と映画産業」の「ハリウッドの繁栄と衰退」pp.638-639を分担執筆 (2018年1月) [共著]. 2) 科学研究費助成事業・基盤研究(C)「一九五〇年代アメリカにおける「ニュー・メディア」としてのテレビをめぐる言説と映画」研究代表者. 3) 日本映像学会学会誌『映像学』編集委員 (～2018年7月). 4) 八十二文化財団主催教養講座「50年後のアメリカン・ニューシネマ」安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」(2018年8月2日) [単独].

沖 裕子

①小林隆編『コミュニケーションの方言学』ひつじ書房, Pp.421 (沖裕子「長野県方言敬語の発想と表現—敬意終助詞が担う親しみと敬い—」pp.251-270, [単著])

②1) 「日本語の談話構築態度-日韓相互の情緒的違和感を説明するモデルの検討—」(『日本語学研究』第55輯, 韓国日本語学会誌, ソウル pp.141-158 [沖裕子・姜錫祐／国際共著])

2) 「依頼談話の発想と表現—異文化接触問題の解決をめざした日韓中対照談話論—」(『社会言語科学会』第21巻第1号, 社会言語科学会学会誌, pp.80-95 [沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二／国際共著])

⑤日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版, 項目執筆 (結節, 言語共同体, 個人語, 談話論, 方言談話 [各単独])

⑥1) 「発想と表現からみた長野県方言の敬語—共通語敬語と比較して—」(長野・言語文化研究会, 於あがたの森文化会館, 2018年2月10日(土) [単独]) 2) 沖裕子・趙華敏・姜錫祐「学術サロン発表：日韓中対照談話論の展望と課題」(漢日対比語言学会, 2018年8月18日(土), 於蘇州大学：中国蘇州 [共同・筆頭発表者]) 3) 八十二文化財団方言学講座「信州人の敬語」(於松本市勤労者福祉会館, 2018年12月13日(木) [単独])

⑦1) 日本語教育学会 審査・運営協力員 2) 韓国日本語学会 一般理事 (2014年1月～2019年9月) 3) 長野・言語文化研究会 代表 (2015年4月～) 4) 国立国語研究所 外部評価委員会 委員 (2016年10月1日～) 5) 八十二文化財団 理事 (2015年～) 6) 社会言語科学会外部査読委員 7) 日本学術振興会科学研究費基盤研究C「日本語談話の発想と表現に関する対照的研究」研究代表者

山田健三

②「仮名をめぐるターミノロジー：仮名用語再考・再論」(単著)『信州大学人文科学論集』5号(通巻52巻)：pp.145-155 (2018年3月発行)

⑥講演「どうして日本はこんなことになっちゃったんだろう?：日本国憲法をめぐる日本語

史学的論件」(単独, 安保関連法案の撤回を求める信州大学人の会シンポジウム(信州大学, 平成30年10月9日)

⑦1)「日本語の歴史(書名)」(日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版, p.729, 2018年10月刊行) 2) 松本深志高等学校評議員

渡邊匡一

⑤「寺社資料の電子化・共有による新たな研究の展望と課題(Code4Lib JAPAN カンファレンス2018.9月2日, 長野県立図書館)[単独] ⑥1) 仏教文学会委員(平成22年4月~31年3月) 2) 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)「真言宗寺院における中・近世期の学問展開に関する基礎的研究(課題領域番号:17K02412) 研究代表者

坂口和寛

②単著「類義表現の例文分析において言語化される例文の意味内容—使用される日本語表現が示唆する例文分析の傾向」『信州大学人文科学論集』第5号, pp.157-171, 平成30年3月

⑦長野県「日本語学習支援者養成・研修カリキュラム開発事業」における「教材の検討・開発委員会」委員(平成30年10月から12月まで)

白井 純

②「漢字の出現頻度と活字コマの在庫状況の関係について—横尾平等心王院古活字本を例として—」(『平成二十九年度 高山寺典籍文書総合調査団 研究報告論集』, pp.60-66, 高山寺典籍文書総合調査団)[単著]

⑤「文字・表記(史的研究)」(『日本語の研究』第14巻3号, pp.57-64, 日本語学会)[単著]

⑥1)「印刷技術からみた日本語文献の歴史」(XII Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil, カンピーナス州立大学/ブラジル, 8月29日)[単独], 2)「キリシタン版の言語規範からみた『ひですの経』」(XII Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil, カンピーナス州立大学/ブラジル, 8月30日)[単独], 3)「信州諸藩旧蔵古典籍の現状と課題」(旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会, 弘前大学, 12月16日)[単独]

⑦1) 訓点語学会委員, 2) サンパウロ州立大学客員教授(8月~10月)

速水香織

②「萩坊奥路作『西行諸国噺』翻刻と解題」[単著](『皇學館論叢』51-1号, pp.24-63)

⑥1)「松本深志神社蔵奉納連歌資料について」[単独](東海近世文学会平成30年度5月例会, 於東海学園大学サテライト教室:中日ビル9階, 2018年5月26日) 2)「「道」と「旅」とを通史的に眺める—古典作品に関連して—」[単独](第1回 道と人研究会, 於信州大学人文学部社会心理学研究室, 2018年9月10日), 3)「近世前期江戸出版文化と文芸」[単独](第十一回皇學館大學人文學會記念シンポジウム「人文学の現在と未来」, 於皇學館大学, 2018年10月28日)

⑦1) くわな市民大学文化科講座「『大鏡』を読む」(桑名市中央公民館, 全7回, 2018年5-12月) 2) 皇學館大學人文學會学外委員(2013年10月~現在に至る) 3) 日本文学協

会委員（2016年12月～現在に至る） 4）日本学術振興会科学研究費基盤研究C・課題番号17K02447「信仰とメディアとの接点—近世前期における奉納文芸並びに神異譚の生成と変容との研究」研究代表者 5）日本学術振興会科学研究費挑戦的研究（萌芽）・課題番号18K18691「観光行動における歩くことの心理過程と自己過程に関する研究」研究分担者